

The Climate Reality Project

公開WBN



事例紹介

あつぎ気候市民会議

2024年3月20日

あつぎ気候市民会議実行委員会
一社) あつぎ市民発電所

鷺谷雅敏 遠藤睦子



一般社団法人あつぎ市民発電所



気候危機を回避し・原発に頼らない社会を目指そう、と6年前から活動している市民団体です。

市民の手で再生可能エネルギーの地産地消や農業の活性化にチャレンジしています。さらに脱炭素でくらしやすいまちづくりを市民みんなで！

理事長 遠藤睦子

主催者の紹介

ソーラーシェアリング：営農型太陽光発電

太陽光の恵みを農業と発電でシェアするしくみ

26.28 kWの小さな発電所（標準家庭7～8軒分程度）

市民出資、みんなで農作業、見学者…つながりの場になる発電所

作物は種類により通常より高収穫量…適度な日影が良い生育環境になっているのかも（地球沸騰化時代の農業には好適？）



みんなで農作業



見学会



子どもたちには探検フィールド

2021年末～
2022年

しかし 再エネ発電所普及拡大は停滞中・・・
厚木市でもなかなか脱炭素の進展がみえにくい

2021年2月 市長が「ゼロカーボンシティ宣言」

2022年度の施策 カーボンニュートラルロードマップ策定・

地球温暖化防止対策計画改定（⇒2023年度から実施）

次のステップに踏み出せる起爆剤？ 厚木市で**気候市民会議**をやってみよう

「市民協働提案事業」に応募してみよう

事業目的：厚木市が策定している**CNロードマップ**を実現させるために**気候市民会議**をやろう

2022年5月応募 市の態勢もかなり前向きになり

「市民が作るアクションプランを市が公的なアクションプランとして受け入れる」と約束！

⇒2022年10月 **市民協働事業**として採択 2023年度の1年間の事業として決まった

気候危機を回避し、豊かで暮らしやすい厚木の未来を創ろう！

主催：あつぎ市民発電所 & 厚木市
連携：環境政策対話研究所
協力：IGES, 神奈川県環境科学センター

資金調達・会計管理

必要経費：600万円程度
参加市民への謝礼、情報提供者・
講師への謝金、実行委員会スタッフ
報酬

市民協働から200万円
民間助成金 ラッシュジャパンより約
200万円（2023年2月から 準備
段階をカバー）
地球環境基金より
（上限）250万円
計650万円



アドバイザー

メインファ
シリ

会議録
専任者

行政との関係：市民協働によるメリット

- ・成果物「アクションプラン」を市の公式プランに受け入れる
- ・無作為抽出を担当
- ・事業の信頼性、広報効果、会場提供などなど
- ・内容は基本的に実行委員会に任せる
- ・行政サイドに市民の本気度を伝える！ いっしょにやろう！
民主主義の新しい形

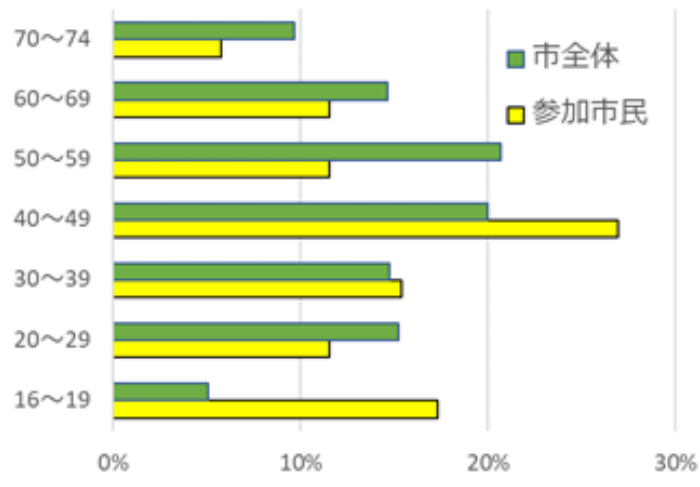
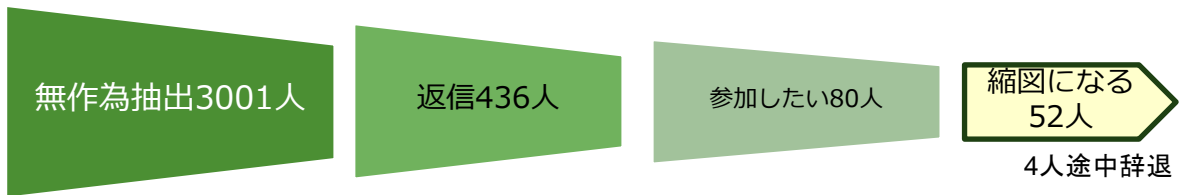
参加市民

無作為抽出で3000人 16歳～74歳 男女 10地域
⇒ 52人でスタート

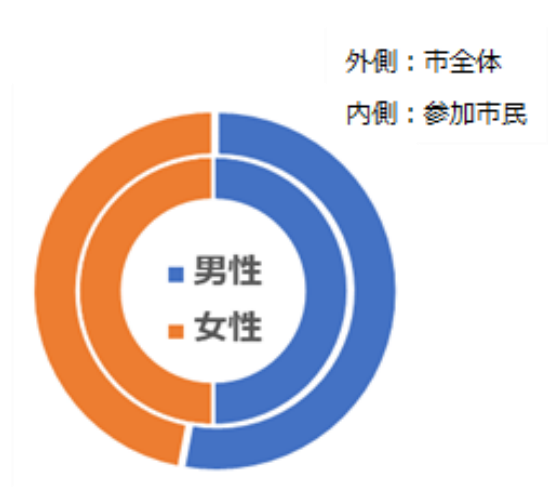
実行委員会スタッフ：ほとんど普通の市民

市民（発電所会員、農援隊の仲間たち、市民活動を担う方々・・・）に呼びかけ
市内外大学に相談・ご協力の呼びかけ 市内企業にも少し呼びかけ
アドバイザーからのご紹介
2023年1月実行委員会準備会のキックオフMTG
ファシリテーター研修：環境政策対話研究所に主催していただく
2023年4月正式に始動（守秘義務を伴う就任依頼⇒承諾書）44人登録
統括チーム、運営チーム（事務局）、広報チーム、ファシリテーター、サポーター

参加市民の構成



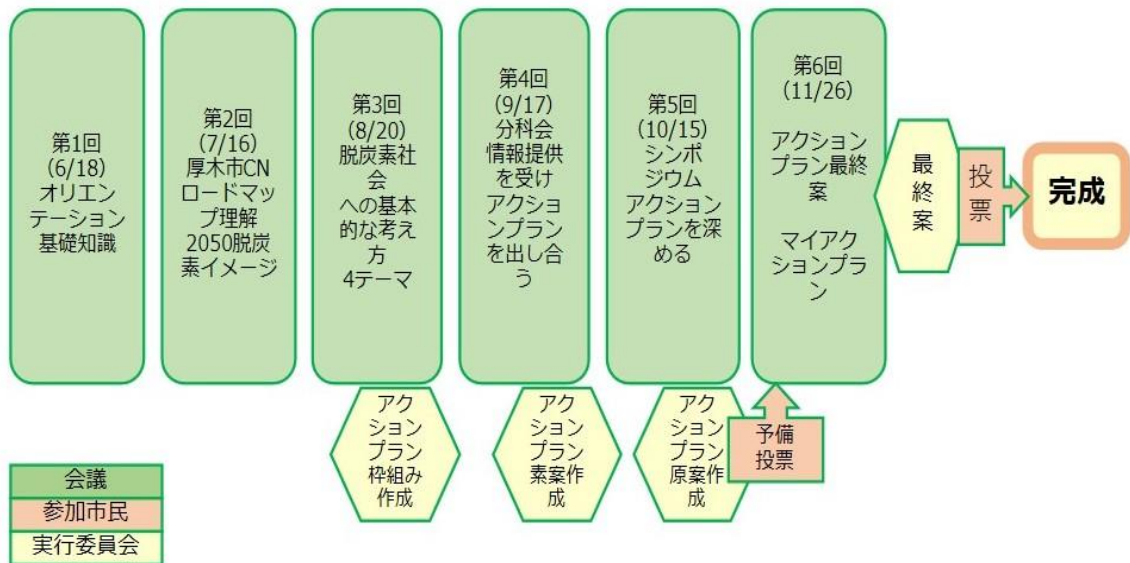
市全体と参加市民の年齢構成



市全体と参加市民の性別構成

会議設計

脱炭素市民アクションプラン in あつぎ 完成までの流れ



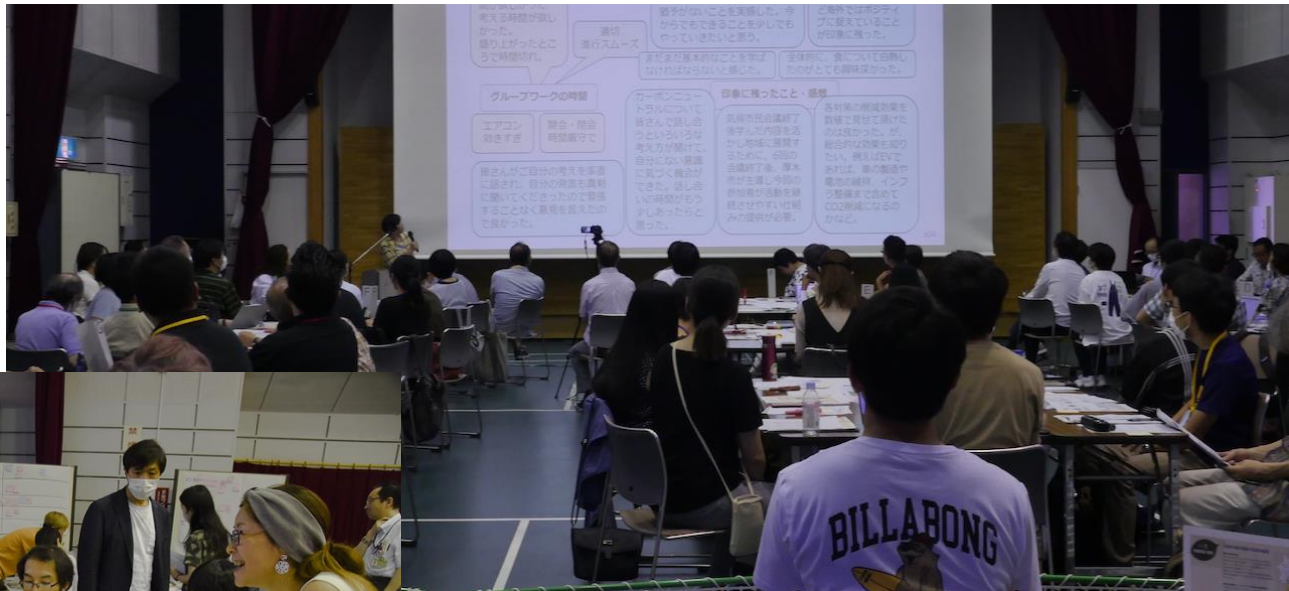
専門家、アドバイザー

| 会議回数 | 氏名（敬称略） |
|-------------------------|---|
| 1回目 基礎知識 | 江守正多・東京大 渡部厚志・IGES |
| 2回目 地域状況 | 新井聡史・県環境科学センター 前場徹・厚木市都市計画 山崎尚裕・厚木市環境政策 |
| 3回目 4テーマ 専門 | 松原弘直・ISEP 梶田佳孝・東海大 山本佳嗣・東京工芸大 村上千里・消費生活AD |
| 4回目 テーマ別 情報提供者 | あつぎ市民発電所、たんたんエナジー、 小田原市、日産自動車、神奈川中央交通、 MONET Technologies (MaaS) エコ窓普及促進会、地元建築家、地球環境研、不耕起栽培実践者 |
| 5回目 普及に関する シンポジウム | 浅利美鈴・地球環境研 二ノ宮リムさち・東海大 岩崎茜・東京大 鈴木秀顕・松蔭大 |
| 全体アド バイザー | 柳下正治、村上千里、三上直之・環境政策対話研 竹井斎・脱炭素かわさき市民会議委員長 |

「脱炭素市民アクションプラン in あつぎ」を 作り上げるうえで注意したこと

- “気候危機を回避し、豊かで暮らしやすい厚木の未来を創ろう”が目的。
- 「厚木市カーボンニュートラルロードマップ」を必ず実現させる。社会・経済・価値観の大転換が必要。
- 2050年の脱炭素した世界をイメージし「バックカasting」で考えよう。
- 公正・公平であること、だれ一人取り残さない。
- 無関心の人でも普通に暮らしていて脱炭素になるような「仕組みをつくること」を目指そう。
- アクションプランの主語は「市民」であること。市民が行うことや、市民が行いたいがそのために必要な条件として行政や事業者に協力を求める、という内容を考えよう。

会議風景



第2回会議2023.07.16



第1回会議2023.06.18

5つの章 合計74項目のアクションプランを記載

第1章 再生可能エネルギーの
地産地消

第2章 移動・まちづくり

第3章 省エネ・住まい

第4章 消費・食・農・廃棄

第5章 「脱炭素市民アクション
プラン in あつぎ」を具体
化、実践、定着していく
ための取組み



イラスト制作：参加市民の菊地栞さん 10

脱炭素市民アクションプラン in あつぎ 一部紹介

第1章 再生可能エネルギーの地産地消

(1) 太陽光発電を中心とした再生可能エネルギーの導入

厚木市民は（CNロードマップに示された）再エネ発電を44MW（2019年）⇒160MW（2030年）⇒400MW（2050年）に増やすため、太陽光発電を中心に可能なすべてのところに設置する。

1) 太陽光発電導入促進の事業体形成 市民は太陽光発電設備の導入に関心を持ち促進するため、市民出資も含む推進事業体の活動に参加する。市には以下の取組みを行う市民参画の事業体を作ることを求める。

- 普及啓発と相談
- 市民出資の募集・管理
- 調査・進捗状況の開示
- 市内企業・大学等との連携

2) 戸建て住宅への太陽光パネルと蓄電池の設置

3) 新築住宅への太陽光パネル設置義務化

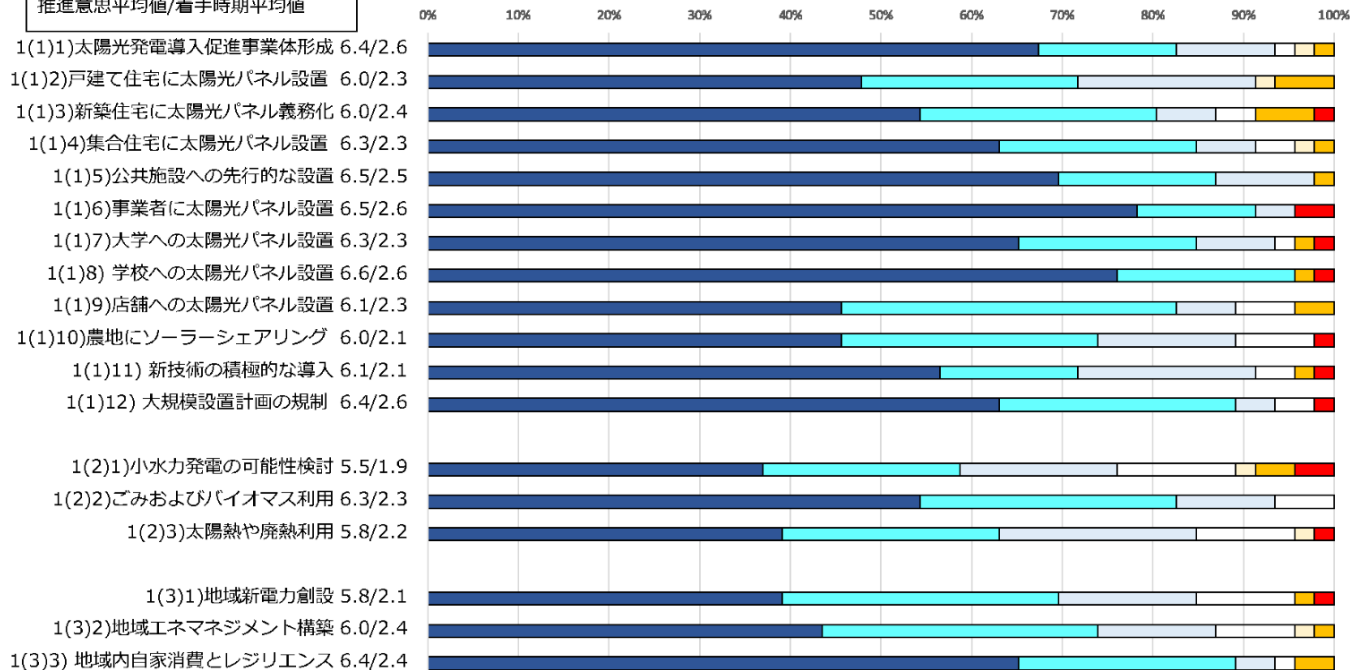
4) 集合住宅への太陽光パネルと蓄電池の設置

(3) 再エネの地産地消実現と地域エネルギーマネジメントシステム構築

あつぎ気候市民会議 脱炭素市民アクションプラン in あつぎ 最終案に対する投票結果

アクションプラン項目名
推進意思平均値/着手時期平均値

第1章 再生可能エネルギーの地産地消



着手時期 ;
2025年まで3点、2030年まで2点、
2030年以降1点、着手しない0点

7;積極的に推進すべき 6 5 4 3 2 1;推進すべきでない

脱炭素市民アクションプラン in あつぎ 一部紹介

第2章 移動・まちづくり

(1) コンパクトシティの形成

3) 駅周辺マイカー乗入れ制限 市民は駅周辺へのマイカー乗り入れをしないようにする。市へは以下の内容に注意しながら、駅周辺へのマイカー乗り入れを制限し公共交通の乗り入れのみとすることを求める。

- マイカー乗入れ制限は段階的に、時間帯制限から。
- 高齢者や障害のある方の駅へのアクセスを確保する。

第3章 省エネ・住まい

第4章 消費・食・農・廃棄

第5章 「脱炭素市民アクションプラン in あつぎ」を具体化、実践、定着していくための取組み

(1) 市民協働の継続

2) 市民協働の連携体制構築 市民は市民協働を継続し脱炭素市民アクションプランの実践に取り組む。市民と市の連携体を作り、協働によりCN実現を早く確実に達成することを目指す。

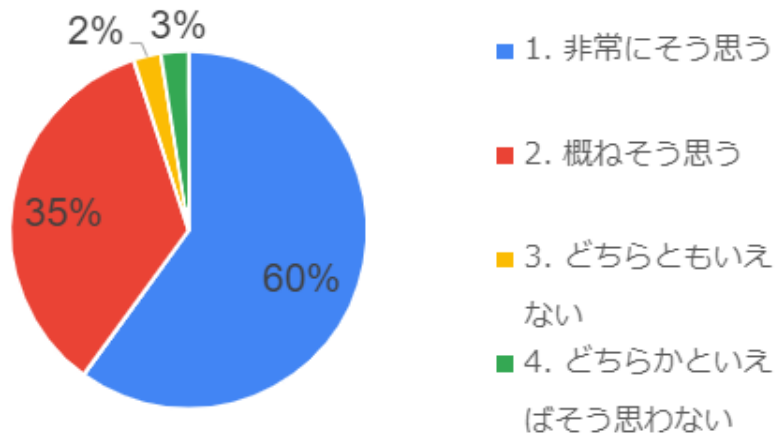
あつぎ気候市民会議 終了 2023年11月26日



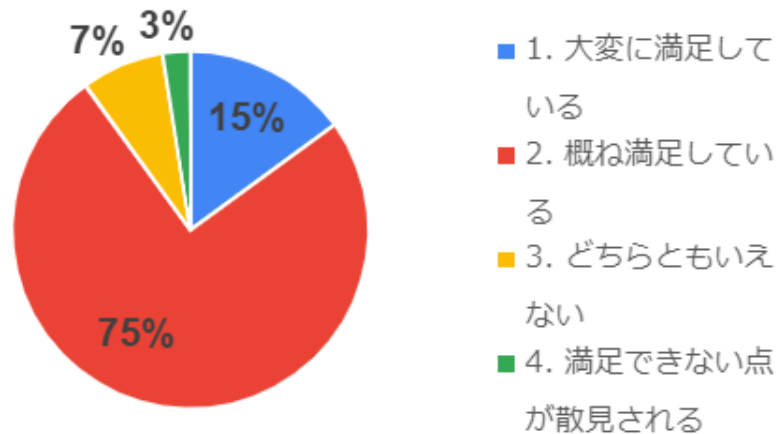
アンケート結果の概略と 会議振り返り

振り返りアンケート回答者数：48名中40名から回答

市民会議に参加して良かったと考えますか



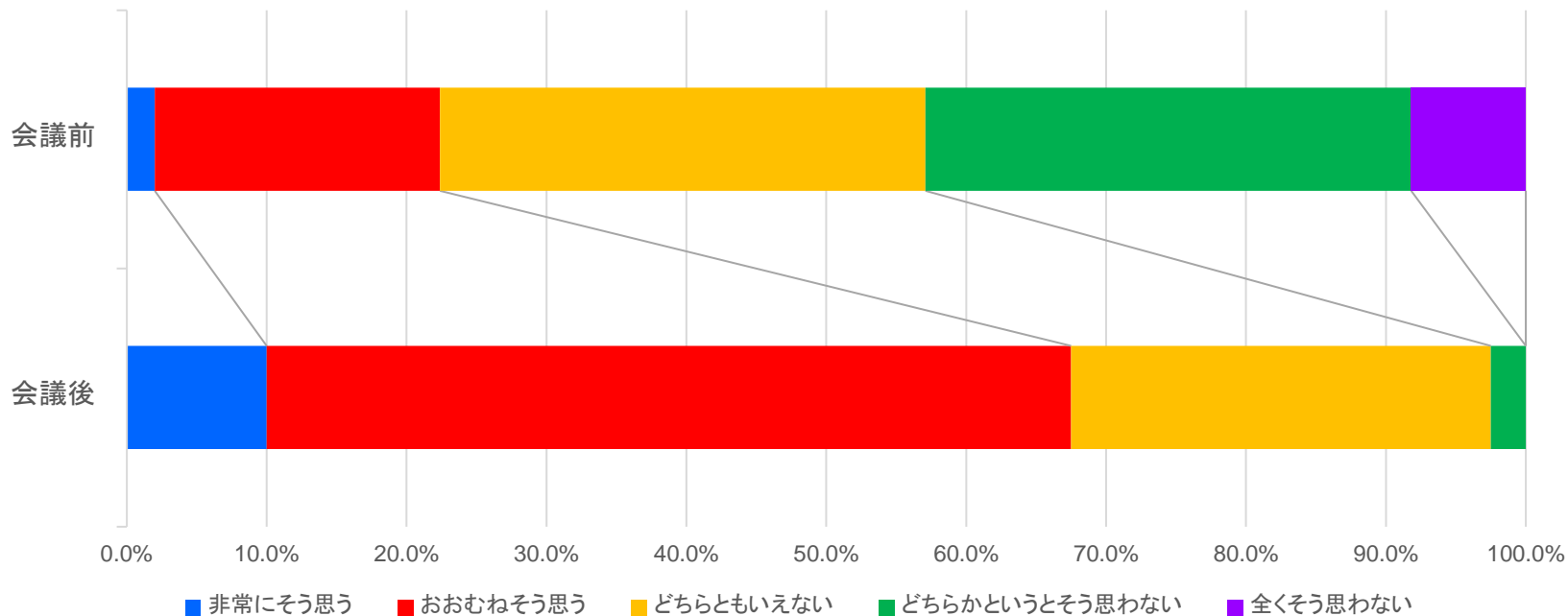
市民提案の内容について満足しているか



- 【理由】
- ①知識・理解の向上（刺激や気づきを含む）
 - ②意識・行動の変化
 - ③交流・つながりの構築

アンケート結果の概略と 会議振り返り

脱炭素社会の実現に向けて、日々の暮らしや地域社会などで、
どのような取り組みや施策がなされるべきかを明確に認識している。

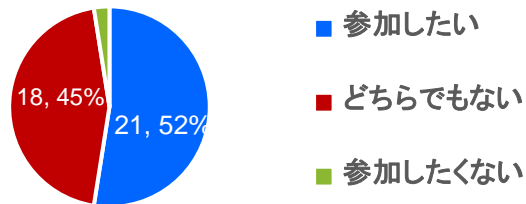


アンケート結果の概略と 会議振り返り

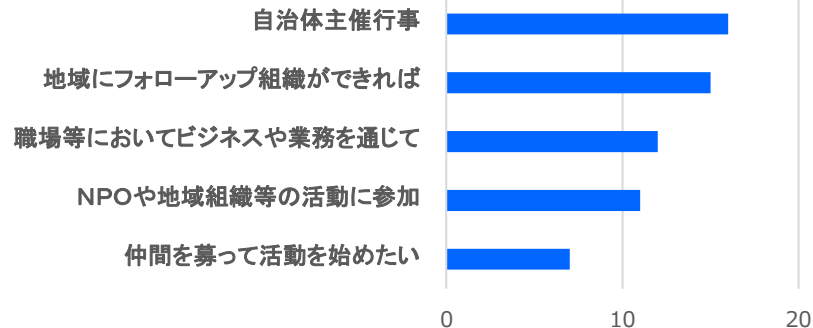
脱炭素社会の実現に向けた取組みについて

アクションプラン取組み具体化に向け

た活動に参加してみたいですか



「具体化に向けた活動に参加したい」選択の21人中人数



【実行委員会反省点】

- ◆ 熟議に至っていないか
 - グループ討議の時間不足
 - 反対意見や疑問が呈されなかった意見はそのままアクションプランになっている
 - ファシリテーションの課題
 - 意見の強い人に引っ張られる
- ◆ 情報提供は質・量ともに適切であったか
 - グループ討議に大きい影響を与える
 - グループ討議の時間を圧縮してしまう
- ◆ グループ討議内容の共有化から最終アクションプラン案作成までのプロセス
- ◆ 実行委員会の運営上の課題

次に向けた提案

2月17日
報告会で
さっそく実現

第5章 脱炭素アクションプランを具体化、実践、定着していくための取組み

- (1) 市民協働の継続
- 2) 市民協働の連携体制構築

市民は市民協働を継続し脱炭素市民アクションプランの実践に取り組む。

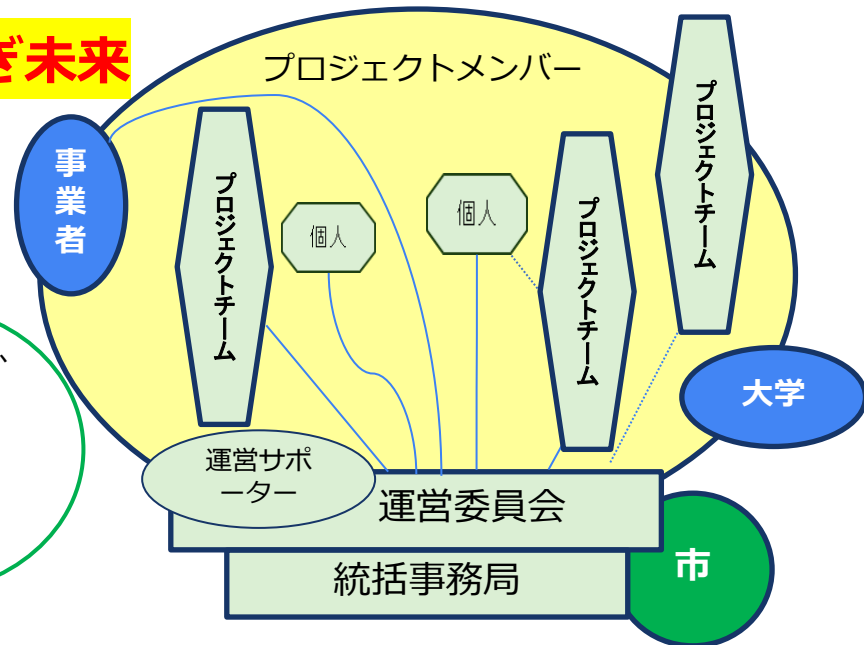
市民と市は連携体を作り、協働によりカーボンニュートラル実現を早く確実に達成することを目指す。

新規連携体：カーボンニュートラルあつぎ未来プロジェクトを立上げ

- ◆ アクションプランの普及
- ◆ 具体的なアクションを始める、アクションを支援する：アクションしたい人が相談協力しながら動けるようなゆるやかな仕組み
- ◆ つながる（地域内、他地域と）
- ◆ 進捗評価
- ◆ 市との情報交換・意見交換・提案

会議参加市民、
実行委員会ス
タッフ市民
未来プロジェ
クトへの参加
意思表示あり

あと2年は厚木市市民協働提案事業として
その後も継続できる方法を探る
資金調達も含めなるべく市民独自性を維持したい



組織イメージ



市民レベルの無謀なチャレンジでしたが
多くの皆さまのご支援とご指導をいただき
なんとか1つの成果に到達できました。
深く感謝いたします。
次を拓く者たちがつながりつつあります。
前途多難ですがさらなるチャレンジを！

ご清聴ありがとうございました



あつぎ気候会議



報告書